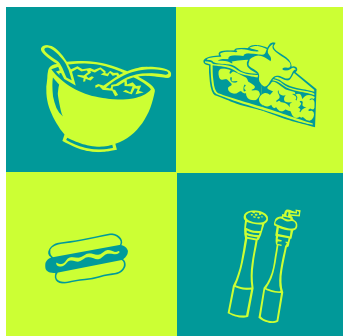




キッズレター

2002.11.07発刊 第78号

編集 さぬき市民病院小児科外来

はじめに

10月から、インフルエンザワクチン接種が開始されました。毎年、小学生までが2回接種で、大人は一回接種です。皮下注射で、少し腫れることが希にあります。ほとんど副反応がなく安全なワクチンといえます。地域の赤ちゃんからお年寄りまでたくさんの方々に積極的に受けていただきたいワクチンといえます。地域のワクチン接種状況が

よければ、その地域でのインフルエンザの大流行を阻止することが可能です。

特に、集団生活の場であり、感染拡大の一番の原因場所である学校に通う生徒・学生たちの接種率を上げることで、学校から持ち帰っての高齢者への感染拡大を予防することを心がけたいと思います。



小児科外来ホームページ
<http://webs.to/shounika>

目次

はじめに	1P
今月のレター (1) 「小児リンパ節腫大」	1
ニュース&ハイライト	1
11月～12月ごろに 流行する疾病	2P
予約外来 定一覧	予 2
今月のレター (2) 「市販薬と処方薬の 違い」	2

ニュース&ハイライト

- ◆ 小児科HPアドレスをご紹介します。<http://webs.to/shounika/>
- ◆ 病院ホームページがリニューアルされました
- ◆ <http://www.shikoku.ne.jp/sanuki-sb/>
- ◆ 当科での予防接種は毎週水曜日に病院2階会議室で行われています。秋は前半にポリオ・麻疹、後半にインフルエンザワクチンが優先的にお勧めです。
- ◆ 小児科医師スタッフが五年ぶりに変更しました。鈴谷浩子先生が九月から勤務されています。詳細は病院HPをご覧ください。
- ◆ さぬき市の乳児検診、一歳半・三歳児検診が津田町保健センターにて行われています。市内の小児科医全員で分担します。しっかり、ご利用ください。

(1) 小児のリンパ節腫大 鈴谷浩子

子供の首を触っていて、首や後頭部、耳の後ろに「グリグリ」ができて、のびのびしているのに気付いて、びっくりして来院されるお母さんはたくさんいらっしゃいます。これは頸部リンパ節と言われるものです。そもそもリンパ節はリンパ球の流れるリンパ組織の一部で、体を細菌などの外敵から守る免疫組織として大変重要なものです。リンパ節は体中に無数にあります。頸部、腋窩、鼠頸部（足の付け根）のリンパ節は、外から触る事ができるため、その存在に気が付きやすいです。

①直径1cm以下の柔らかいリンパ節：小児、特に学童期は一生で一番リンパ組織が発達している時期であり、小児は皮下脂肪が少ないため、特によく触れます。頸部のクリクリとよく動くリンパ節ならば、正常のリンパ節なので、問題にならないことがほとんどです。後頭部、耳の後ろなどにもあります。しかし、腋窩、鼠頸部などにも触れる場合はウイルス感染のこ

とがあります。

②圧痛、皮膚の発赤のある場合：多くの場合扁桃炎、う歯（虫歯）などの化膿巣があり、その局所のリンパ節が腫大します。抗生物質を内服しますが、3cmを越えるような大きいものでは切開して中の膿を出す事もあります。

③大きく、無痛性の場合：一目見てわかるような大きさの場合は悪性（悪性リンパ腫、白血病など）の場合があります。白血病は他に出血斑や肝脾腫を伴う事が多いです。希に結核の場合もあります。



キッズレター

さぬき市民病院小児科外来
月刊情報誌

～ 子供たちの健康を願って ～

〒769-2329

香川県さぬき市石田東甲387-1

さぬき市民病院 小児科外来

内線 310

Tell : 0879 (43) 2521

Fax : 0879 (43) 6469

Email : okawa.gh@viola.ne.jp

病院HP//www.shikoku.ne.jp/
sanuki-sb/

さぬき市暫定HP//www.sanuki.ne.jp

ホームページもご覧ください。
<http://webs.to/shounika>

時候に合ったテーマで毎月お母さま方に
情報を提供させていただいています。

次号は12月下旬に発刊予定です。

11月～12月に流行しそうな疾病

＊気管支喘息の発作は、少なくなります。ただ、空気の乾燥や気温の低下に比例して、アトピー性湿疹の増悪が認められます。毎日のスキンケアが大切になります。

＊寒さが徐々に日常化してくると、感染性胃腸炎（主にウイルス性）が大流行します。頻回で激しい嘔吐と下痢が続きます。乳幼児はあっという間に脱水症を起こします。特に真っ白い便が特徴の白色下痢症に注意が必要です。入院するケースが大変多いようです。

＊引き続き、次季節のためのインフルエンザワクチンや日本脳炎ワクチンなどの基礎免疫をつけておくことが重要です。

小児科予約外来のお知らせ

・乳児健診の予定（母子手帳） 担当医： 鈴谷医師
木曜日午後から診察です。1週間前までに予約して下さい。

11月（ 7日・21日 ） 12月（ 5日・19日 ）

・定期予防接種の予定 担当医： 井上医師・坂口医師
印鑑・母子手帳が必要です。水曜日午後に行っています。

前週金曜日が締め切りです。

11月（ 6日・13日・20日・27日 ）

・心臓外来の診察 担当医： 井上・秋田医師
第二火曜日午後2時に実施しています。要予約です。

11月 12日 次々回予定 12月 10日

（2）市販薬と処方薬の違い

吉田由樹

「市販薬と処方薬の違いは？」市販薬はお店で誰でも買える薬。体質や体重に関係なく、月齢や年齢で使う量が決められているため、比較的弱い成分の薬が多いのが特徴です。その分安全性は高いのですが、副作用が全くないわけではなく、効き目も弱いと考えていいでしょう。

一方、病院でもらう薬は、子供の体重や症状・経過に合わせて、きめ細かく調整されたオーダーメイドなので、より一層の効き目が期待できます。子供は症状が急に変わりやす

いので病院を受診してその時の症状に応じた薬を処方してもらうのが基本ですが、ちょっとした鼻かぜなどで受診する程でもない時、2～3日市販薬を使うのは、1歳過ぎてお母さんが赤ちゃんの普段の健康状態をつかめるようになってからが無難です。1歳未満の赤ちゃんはなるべく市販薬に頼らず、小児科を受診しましょう。

